



2026年3月期 第2四半期

決算説明資料

2025年11月25日

証券コード:3741

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 重点テーマ

事業分野 (BF)

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない一流のソフトウェア会社となる

- 1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核として成長
- 「リアルタイム技術」が必要とされ、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野
- 社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野を開拓

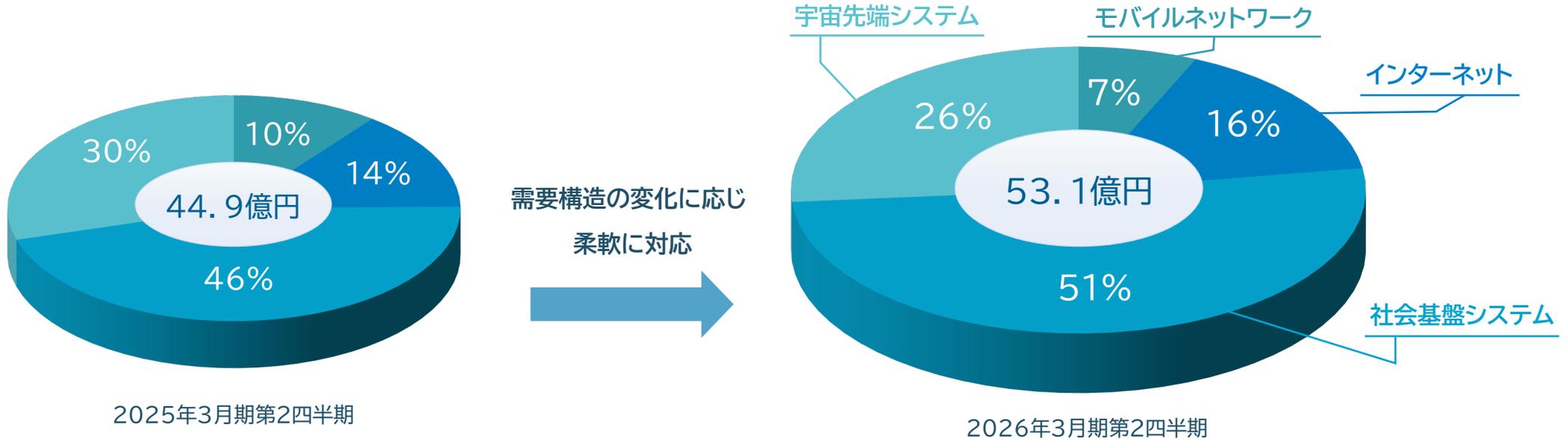


2026年3月期 第2四半期

決算概要

事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



モバイルネットワークBF

減少傾向が継続

インターネットBF

非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加

社会基盤システムBF

医療分野の開発が大幅に増加したことに加え、交通分野や防衛分野の開発も増加

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加したものの、全体構成比では減少

2026年3月期第2四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	5,317	118.3%	
営業利益	827	108.2%	15.6%
経常利益	889	109.8%	16.7%
当期純利益	623	110.1%	

受注高は過去最高、受注残高は過去2位

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	5,944	100.9%
受注残高	6,888	96.1%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

非接触IC関連の開発や、医療分野、交通分野の開発が増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となったが、受注残高は、前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少し、過去2位となった。

第2四半期損益計算書

	2025年3月期第2四半期 (百万円)	2026年3月期第2四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4,495	5,317	118.3	4,550	116.9
売上原価	3,103	3,760	121.2	3,020	124.5
売上総利益	1,391	1,556	111.9	1,530	101.7
販売管理費	627	729	116.3	760	96.0
営業利益 (営業利益率)	764 (17.0%)	827 (15.6%)	108.2	770 (16.9%)	107.4
経常利益 (経常利益率)	809 (18.0%)	889 (16.7%)	109.8	850 (18.7%)	104.6
当期純利益	566	623	110.1	590	105.7

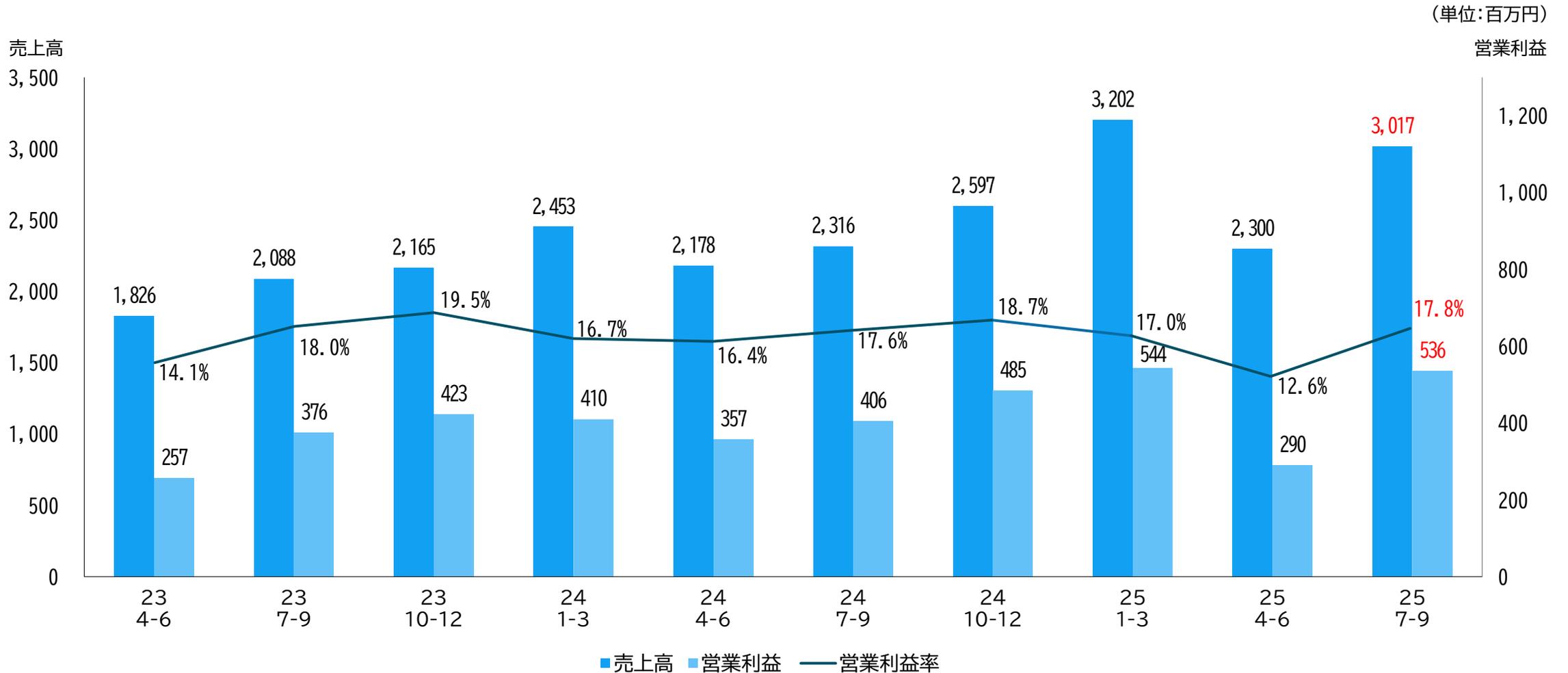
売上原価 仕入高(4.3億円、下期に予定していた納期が前倒しされ増加)、外注費(18.6億円、前年同期比15.3%増/売上高外注比率35.1%、前年同期比0.9%減)が大幅に増加、定期昇給・ベースアップにより人件費が増加

販売管理費 新入社員の増加、定期昇給・ベースアップにより労務費が増加、研究開発費は83百万円で、前年同期比で35.3%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が大幅に増加(26百万円、前年同期比70.0%増)

四半期業績推移(PL)

14四半期連続の増収増益の後、第1四半期は増収減益となったが、第2四半期は増収増益に回復

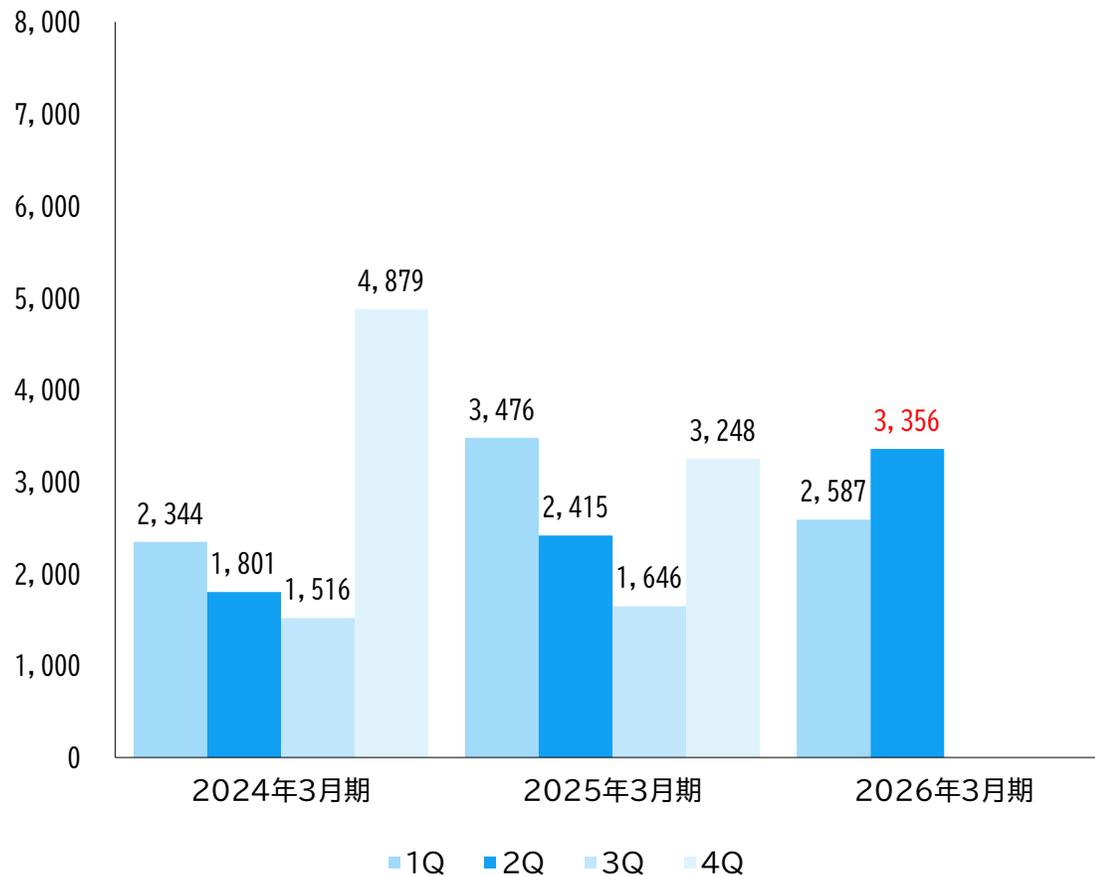


四半期業績推移(受注状況)

受注高は過去最高、受注残高は前年第1四半期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少し、過去2位

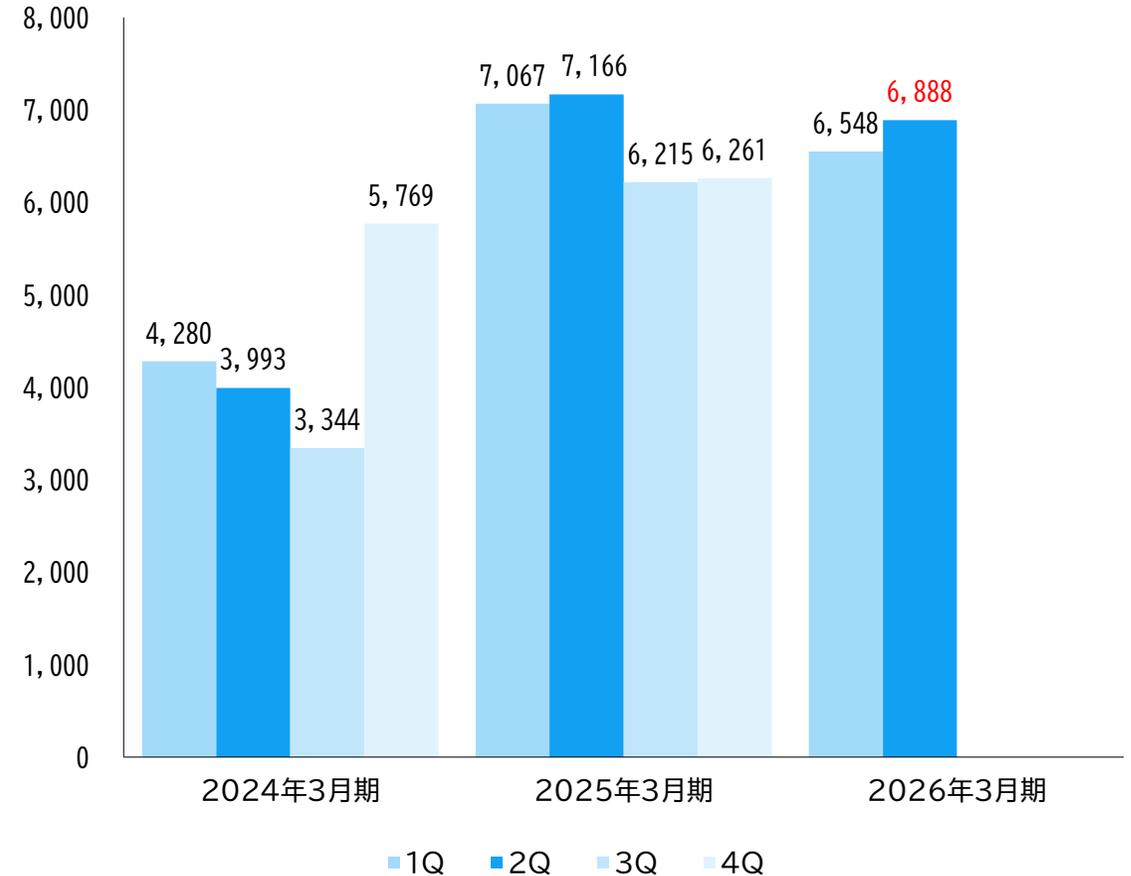
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第2四半期BF別の状況

社会基盤システムBF、インターネットBF、宇宙先端システムBFが増加

ビジネスフィールド	2025年3月期第2四半期		2026年3月期第2四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	470	10.5	355	6.7	75.7
インターネット	642	14.3	843	15.9	131.3
社会基盤システム	2,055	45.7	2,718	51.1	132.3
宇宙先端システム	1,326	29.5	1,399	26.3	105.5
合計	4,495	100.0	5,317	100.0	118.3

- モバイルネットワークBFは、減少傾向が継続
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加
- 社会基盤システムBFは、医療分野の開発が大幅に増加したことに加え、交通分野や防衛分野の開発も増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加

第2四半期BF別受注状況

インターネットBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2025年3月期第2四半期		2026年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	478	242	369	77.1	192	79.1
インターネット	679	359	928	136.8	514	143.1
社会基盤システム	3,307	5,576	3,226	97.5	5,341	95.8
宇宙先端システム	1,426	987	1,419	99.5	839	85.0
合計	5,892	7,166	5,944	100.9	6,888	96.1

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は4,216百万円(前年同期比1.9%減)、来期以降売上貢献分は2,671百万円(前年同期比6.9%減)

- モバイルネットワークBFは、全体的に減少傾向
- インターネットBFは、非接触IC関連、民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの受注が増加したものの、前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の受注が増加したものの、サービスロボット関連の受注が減少し、全体として前年同期と同水準

第2四半期期末貸借対照表

	2025年3月末日(百万円)	2025年9月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	9,326	8,798	▲527
固定資産	2,449	2,383	▲66
流動負債	2,281	1,510	▲771
固定負債	163	230	67
純資産	9,330	9,440	109
総資産	11,775	11,181	▲593
自己資本比率	79.2%	84.4%	5.2%
流動比率	408.7%	582.5%	173.8%
固定比率	26.3%	25.2%	▲1.0%

流動資産 売上債権の減少、現金及び預金の増加などによる減少

固定資産 投資有価証券が減少したことなどによる減少

流動負債 買掛金、未払法人税等の減少などによる減少

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

	2025年3月期第2四半期 (百万円)	2026年3月期第2四半期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,717	2,689	971
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲320	81	402
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲443	▲559	▲116
現金及び同等物の増減額	953	2,211	1,258
現金及び同等物期末残高	3,921	4,443	521

営業キャッシュ・フロー 売上債権の減少、税引前利益の増加などによる収入増

投資キャッシュ・フロー 投資有価証券の償還があったことなどによる収入増

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加などによる支出増

2026年3月期

今期業績見通し

2026年3月期業績見通し

概ね計画範囲内であり、業績予想は据え置く

	2025年3月期実績(百万円)	2026年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	10,295	10,700	103.9
売上原価	7,224	7,470	103.4
売上総利益	3,070	3,230	105.2
販売管理費	1,277	1,390	108.8
営業利益 (営業利益率)	1,793 (17.4%)	1,840 (17.2%)	102.6
経常利益 (経常利益率)	1,893 (18.4%)	2,010 (18.8%)	106.1
当期純利益	1,344	1,395	103.8

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加え大幅なベースアップによる人件費の増加、仕入高の増加などにより、増加を見込む

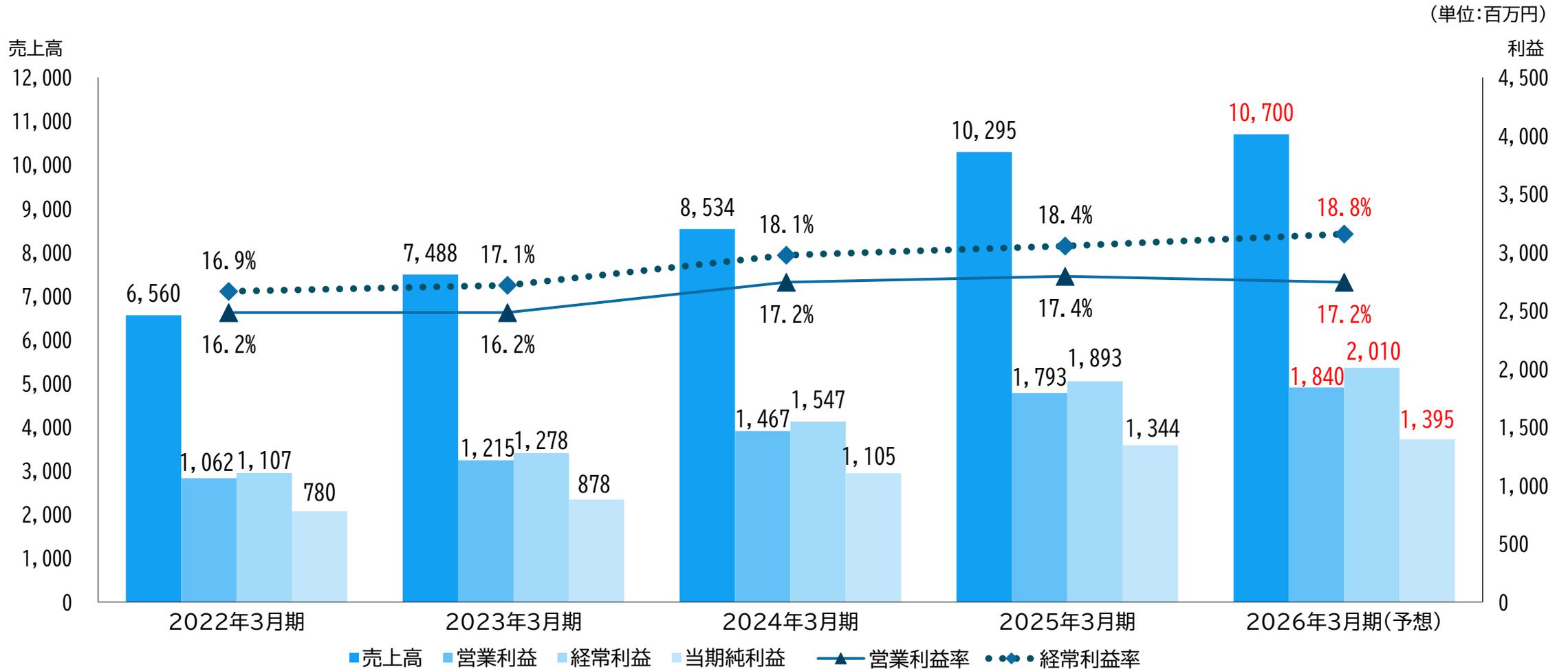
販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

通期業績の推移

9期連続の増収増益を目指す



2026年3月期BF別業績見通し

インターネットBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	前期と同様の環境が継続し、減少		前期と同様の環境が継続しており、ほぼ 想定通りの展開	
インターネット	非接触IC関連の開発が堅調であること に加え、民間企業向けのDX関連の開発 が増加し、増加		非接触IC関連の開発が堅調であること に加え、民間企業向けのDX関連の開発 が増加し、想定を上回る展開	
社会基盤 システム	環境分野や福祉分野をはじめとした官 公庁向けの開発が好調であることに加 え、医療分野の大型案件や防衛分野の 開発が増加し、増加		官公庁向けの開発が増加見込みである ことに加え、医療分野の大型案件や交通 分野、防衛分野の開発が増加し、ほぼ想 定通りの展開	
宇宙先端 システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロ ボット関連の開発が堅調であることに加 え、国の研究機関向けの開発が増加し、 増加		車両自動走行の研究開発案件が堅調で あることに加え、宇宙天文分野の開発が 増加し、ほぼ想定通りの展開	

2026年3月期

重点テーマ

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。
2. 特に、AIや量子コンピュータ、エッジコンピューティング、デジタルツイン、ロボティクス、XR(クロスリアリティ)、BMI (Brain-machine Interface)などの研究に注力する。

「高付加価値化」

1. 最先端のリアルタイム技術に取組み、高単価、高付加価値化を目指す。
2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント(革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど)を核として、主体的なビジネスを推進する。
3. サイバーレジリエントな環境と体制を整備する。

「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。
2. ハードウェアベンダとの人材交流を進め、ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

研究開発：量子コンピューティング

量子コンピュータは従来のコンピュータを凌駕する計算能力を期待されているが、その実用化には量子コンピュータを利用するための量子ソフトウェアが必要となる。当社は、大阪大学を中心とした共同研究チームの一員として量子ソフトウェアの研究開発を進めており、量子コンピュータの活用方法や、量子コンピュータを利用する上で必要になるクラウド環境に関する研究開発に取り組んでいる。

大阪大学が稼働を開始した「純国産」量子コンピュータの開発に協力

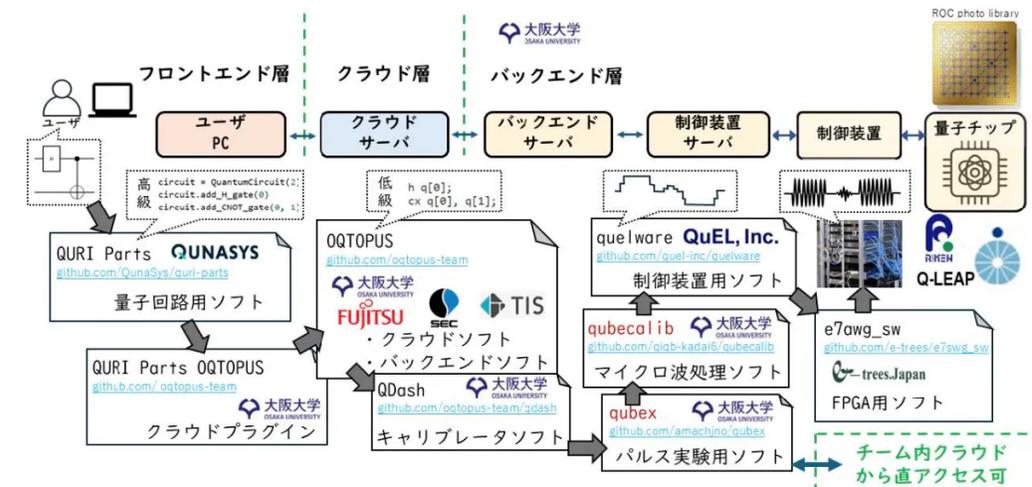
2025年7月28日、大阪大学量子情報・量子生命研究センター(QIQB)にて、主要部品・パーツやソフトウェアが全て日本製となる「純国産」超伝導量子コンピュータが稼働を開始した。

本システムは大阪大学を中心とした共同研究グループにより開発されたもので、当社は量子計算の高速化技術の共同研究や量子クラウドソフト「OQTOPUS」の共同開発等に貢献している。

「OQTOPUS」は量子コンピュータ・クラウドサービスに必要な、環境構築から運用までを網羅する基本ソフトウェアを一括して提供する。開発した量子コンピュータをクラウド公開したい大学や研究機関、企業は「OQTOPUS」を利用することで、簡単にクラウドサービスをユーザーに提供することが可能となる。

2025年7月28日 当社ニュースリリース：
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-4179713406098432955.html>

阪大クラウド量子コンピュータスタック2025



量子コンピュータシステムを構成するソフトウェアのスタック

Copyright © OSAKA UNIVERSITY. All Rights Reserved.

研究開発：宇宙×ロボット

パイロードの管理・運搬・操作ロボットシステム「PORTRS」ISS実証用システムの開発(JAXAの技術提案方式の調達案件)

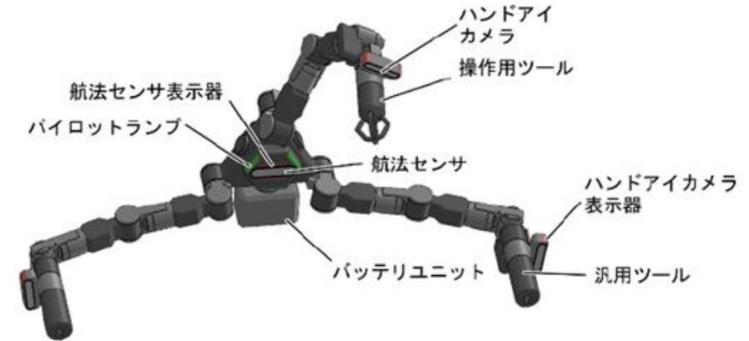
「PORTRS」は、国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟で動作する多肢ロボットを地上から遠隔操作することにより、実験サンプルなどの物品の搬送・操作や、船内の状態の確認・監視を自動化するためのシステムである。ISS船内の作業効率化や宇宙飛行士の作業軽減を目的とし、2024年3月にスタートした。

代表者：株式会社セック

共同提案者：株式会社浜野製作所/株式会社ウェルリサーチ/コニカミノルタ株式会社

2024年3月11日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/news71932186239469261.html>



RFP※提案時の多肢ロボット外観イメージ

※JAXAの企画競争入札の技術提案方式(Request for Proposal方式)

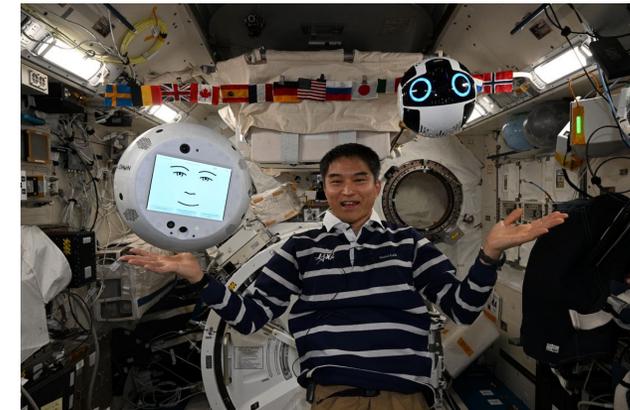
ISS上の宇宙ロボット協働実証実験「ICHIBAN ミッション」に技術協力

2025年7月29日、JAXAが開発したISS船内ドローン「Int-Ball2」と、ドイツ航空宇宙センター(DLR)が開発した宇宙飛行士支援システム「CIMON」の2体の宇宙ロボットがISS上で協働する実証実験「ICHIBAN ミッション」が行われ、成功した。

異なる機関で開発された2体の宇宙ロボットが、ISS内の異なるネットワークをまたいで通信・協働することに成功した画期的な成果で、当社は「Int-Ball2」が「CIMON」との間でリアルタイムに遠隔監視データとコマンドの送受信を行うためのインターフェースを開発した。

2025年7月31日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-310333214302696395.html>



ISS内の「CIMON」(左)、大西宇宙飛行士(中央)、「Int-Ball2」(右上)
画像提供：JAXA/DLR/ESA/NASA

研究開発：エッジコンピューティング

エッジAIチップの開発

「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」（NEDO公募事業）

2022年4月にスタートした本プロジェクトでは、人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野への応用と実用化を目指す。

ロームのAIソリューション「Solist-AI™」のエコシステムパートナーに参加

「Solist-AI™」は、ローム株式会社がエッジコンピューティング分野に向けて提供するオンデバイスAIソリューションである。

当社は、現在研究開発中のリザバーコンピューティング(レザバーコンピューティング)を、ロームの協力のもと、「Solist-AI™」マイコンに実装した。

「Solist-AI™」マイコンはリザバーコンピューティングの実装に適したオンデバイスAIマイコンであり、当社のエッジAIビジネスを加速できると考え、エコシステムパートナーに参加。

「Solist-AI™」マイコンや開発環境を用いてアプリケーションやプラットフォームソフトウェアを開発する。

※「Solist-AI™」は、ローム株式会社の商標または登録商標である。

2025年3月19日 当社ニュースリリース：

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20250318596448/pdfFile.pdf

Topic:

ワイヤレスジャパン×ワイヤレス・テクノロジー・パーク 2025に出展
インフラ設備のモニタリングにエッジAIを適応した事例について紹介した。

2025年5月26日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news1235047222754188189.html>

Topic:

**京都リサーチパークにおいてリザバーコンピューティングを用いた
実証実験を実施**

京都リサーチパークにおいて、リザバーコンピューティング(レザバーコンピューティング)を用いたインフラモニタリングシステムの実証実験を行った。

2025年10月21日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news9185156614510793.html>

研究開発：リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム

「膀胱がんの見落としを防ぐリアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化」に参画

筑波大学発スタートアップの株式会社 Vesica Japanなどが進める研究開発課題「膀胱がんの見落としを防ぐリアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化」に参画する。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「橋渡し研究プログラム(大学発医療系スタートアップ支援プログラム)」の筑波大学拠点におけるシーズS2課題として採択されたものである。

当社の強みである、高度な信頼性が求められるシステムの設計技術である「リアルタイム技術」を適用し、高い安全性や信頼性が求められる医療分野の発展に貢献していく。

システム概要

レザバーチップAI を用いて膀胱がんの内視鏡検査を支援するシステムである。

観察していたのに診断できなかった「見落とし」と観察漏れによる「見逃し」を防ぎ、高い診断精度を実現する。

- AI で病変の可能性のある部位を推定し、検査中の内視鏡画像にリアルタイムで重ね合わせ表示することで診断を支援
- 膀胱内の観察済みの範囲を可視化し、くまなく観察できるように支援

当社の役割

医療機器であるリアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの研究開発、国内薬事及び米国食品 医薬品局(FDA)承認取得のための製品開発プロセスの構築、製品開発プロセスに則った製品プロトタイプの開発を担当する。

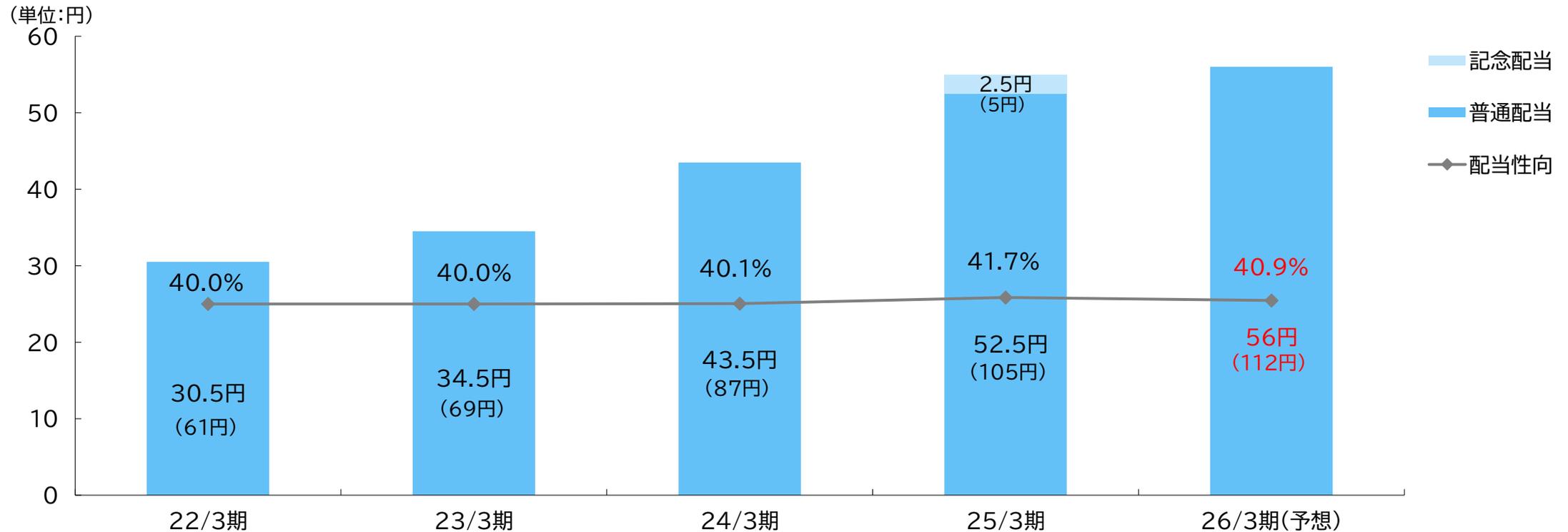
2025年8月5日 当社ニュースリリース：

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20250804529577/pdfFile.pdf

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2025年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。
2026年3月期は、株式分割の実施に伴い、配当予想を期初予想の1株当たり111円(分割後換算55.5円)から56円に修正。



※1株当たり配当金は、2022年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出しております。
()は株式分割前の金額。

ご参考: ニュースリリース一覧(2025年8月~11月)

8月 1日	<u>「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」に採択</u>	10月 1日	<u>セック、チームスピリットと公共分野における人事管理業務のデジタル化で協業を開始</u>
8月 4日	<u>「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築」の委託先に採択</u>	10月15日	<u>横浜ロボットワールド2025出展</u>
8月 5日	<u>リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化プロジェクトに参画</u>	10月17日	<u>STATION Aiにてロボット荷物搬送サービスの実証実験を実施</u>
8月 5日	<u>【出展レポート】建設・建築DX EXPO 2025 夏 東京</u>	10月20日	<u>【出展レポート】第5回 XR・メタバース総合展(秋)</u>
9月12日	<u>日本証券新聞社主催のIRセミナー(広島・福山)にて会社説明会を開催</u>	10月21日	<u>京都リサーチパークにおいてリザーバーコンピューティングを用いた実証実験を実施</u>
9月17日	<u>群馬県「IoT・AI活用人材育成講座」開催</u>	10月29日	<u>世田谷区 STEAM教育講座「宇宙ステーションではたらくロボットをプログラミングしよう！」に協力</u>
9月18日	<u>AMD Adaptive & Embedded Computing Tech Day 東京 出展</u>	11月10日	<u>第69回宇宙科学技術連合講演会にてJAXAと共同で宇宙ロボティクスに関する口頭発表を実施</u>
9月29日	<u>NIHONBASHI SPACE WEEK トークセッション開催</u>	11月10日	<u>TSUKIMI観測シミュレータの開発に協力</u>
10月 1日	<u>XR・メタバース総合展出展</u>	11月10日	<u>「マルチタスクロボットによる建物の維持管理業務支援の実証検証」に協力</u>

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。